

ひやくさい

2019年(平成31年)3月発行 No.96

福岡県高齢者福祉生活協同組合

〒812-0025 福岡市博多区店屋町3-23

サカビル2F

TEL(092)282-1431 FAX(092)282-1433

発行責任者:理事長 吉野 高幸

編集責任者:広報委員会

Email: ikiiki00@mba.sphere.ne.jp

ふくし生協

検索



ふくし生協創立20周年記念事業について

組合員の皆様に於かれましては、日ごろからご理解とご協力をいただきまして、まことにありがとうございます。

さて、2019年は、ふくし生協創立20周年を迎える年となります。これまでも10周年、15周年と記念事業を実施してきましたが、今回は大きな節目となる20周年にむけて委員会を立ち上げ、準備を進めています。

委員会立ち上げ当初から目的について議論を重ねておりましたが、特に多かった意見として、「立ち上げ時のことを知らない」「統一賃金は普通」等がありました。今働いている職員組合員の多くは同様に立ち上げ時代を知りません。これまでの歴史を振り返るいい機会にしていくべきとの意見も多く出されました。

福岡県高齢者協同組合から福岡県高齢者福祉生活協同組合への成り立ちや、事業所の

独立採算制の時代、統一法人化の流れの中、手弁当の時代があったということだけは伝え聞いていますが、改めて立ち上げの意味や思いを知る機会として考えていければと思っています。

これらを踏まえて、今回20周年を節目に、「20年を振り返ろう」産声から未来へ」として、記念式典やフォーラム、組合員や地域のみなさんに楽しんで頂く落語の独演会も計画しています。また、20周年記念誌「はばたけⅢ」を発行し、ふくし生協を知って頂く資料として活用したいと思っています。記念事業を通じて、世代間交流、地域との交流を広げる契機となれるよう、組合員のみなさまのご支援、ご協力を頂きながら、記念事業成功にむけて取り組んでいきたいと思っています。

ふくし生協20周年記念事業

実行委員会

〈独演会の演者紹介〉

三遊亭歌之介



20周年記念行事予定
1、20周年記念誌発行
(平成31年6月 発刊予定)
2、20周年記念式典・ふくし生協を語るフォーラム・落語の独演会
(平成31年8月25日(日)
10:30~15:00 サンレイク粕屋)

1959年 鹿児島生まれ。
1978年 三代目三遊亭圓歌入門。
1982年 ニツ目昇進、三遊亭さん歌となる。
1987年 真打昇進、初代三遊亭歌之介となる。
1991年 国立演芸場花形演芸大賞金賞受賞。
2019年 四代目三遊亭圓歌を襲名する。
歌之介さんは鹿児島出身。三代目三遊亭圓歌に弟子入り。この3月には四代目圓歌の名跡を継ぐことになっている。
方言を生かした独特の語り口が持ち味で、身の回りの出来事から時事問題まで軽妙な笑いで吹き飛ばす。

『一考察に基づく日本の社会福祉』本編が完成しました

本作は平成30年5月号（No.91）より本部職員の江島大地氏と取り組んできた作品ですが、組合員の皆さんに伝えたい大量の情報の中から、いかに情報を削るか…いかに情報を残すか…といった作業を地道に繰り返して、ようやく完成にこぎつけることができました。

本作は介護保険制度の変化（介護保険が医療連携・重度化対応にシフトし、軽度者向けサービスが縮小される流れ）に焦点を当てて、そのストーリーをマンガで表現したのですが、マンガとはいえ、ストーリー構成は厚生労働省社会保障審議会の議事録や資料、その他省庁の関連資料などを参照していますので、すんなり理解するには難しい内容だと思います。

したがって、一人で読むというよりは、グループで集まり、それぞれの知識や情報で補い合いながら読み進め、自由に感想を述べあうなどの活用、また、講師役が補足情報を交えながら本作を読み進め、その後テーマを設定して感想や意見を出し合って話し合う…などの活用を想定しています。

次にそれぞれの概要を簡潔にまとめましたので、少し復習・予習した上で、本編を通してお読みください。

《第Ⅰ部》新自由主義突入編は、「もはや戦後ではない」というフレーズが有名な高度経済成長期の始まりと、二度のオイルショック後に政策導入した新自由主義を考えるストーリーです。

《第Ⅱ部》介護保険制度導入編は、新自由主義の自己責任論が反映された「日本型福祉社会」を理解し、時代背景も相まって「社会的入院」が増えていく状況と、介護保険の制度設計を考えるストーリーです。

《第Ⅲ部》地域包括ケアシステム編は、充実した内容でスタートした介護保険制度が、短期間のうちに「本来の目的」に向かって、その姿を変えていく動きを考えるストーリーです。

《第Ⅳ部》地域とのつながり編（本号掲載）は、Ⅰ～Ⅲ部で想定以上に早く変化する世の中の動きを「理解する大切さ」に気付いていただける前提で、身近にあるさまざまな社会資源や人々との「つながり」を考えるストーリーです。

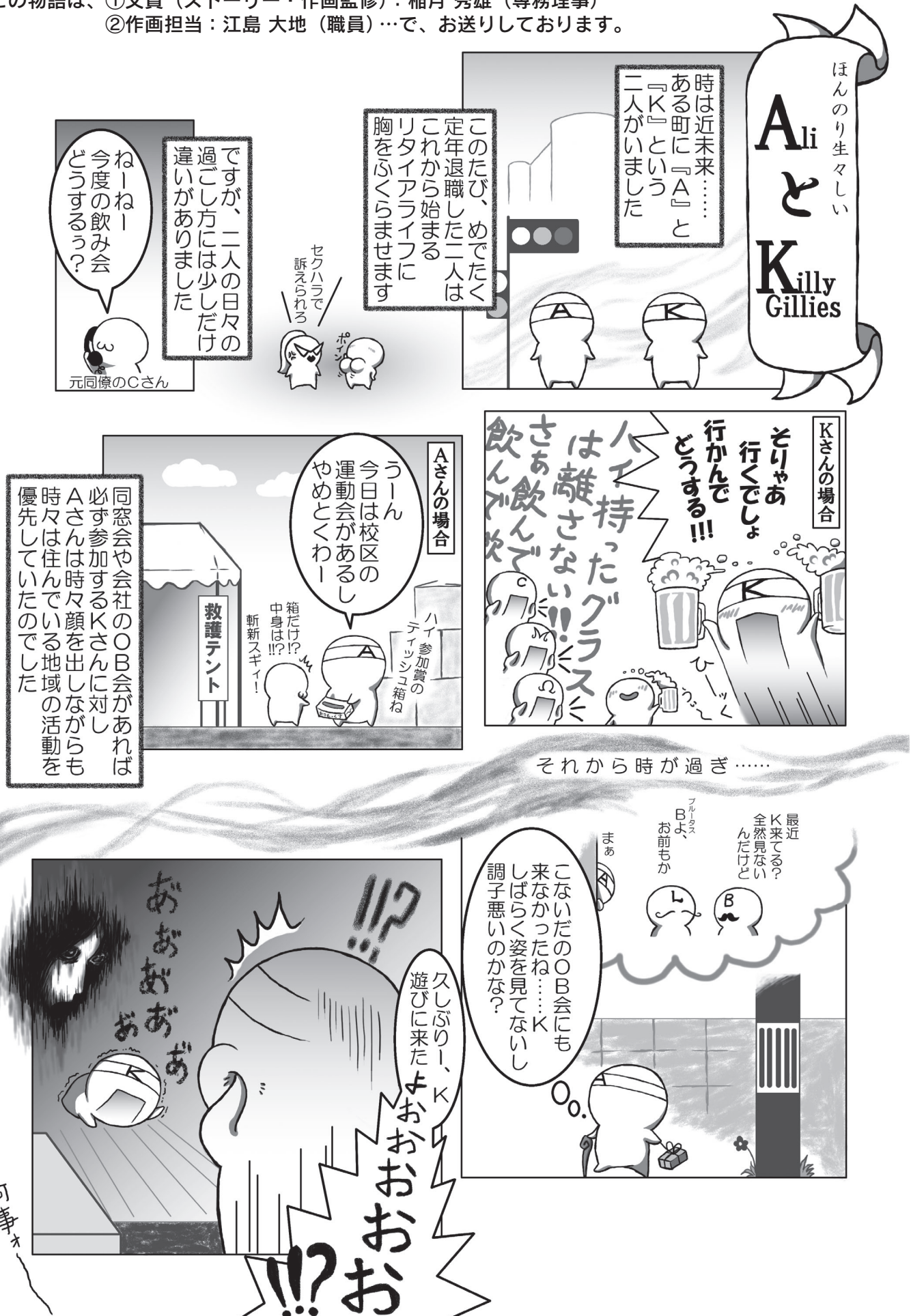
ストーリーそのものを好意的・批判的に論じていただくことは読者の皆さんにお任せして、生活の安心・安全のことについて、考え合う“きっかけ”になることを望んでいます。

なお、制作にあたっては、できるだけ批判的な表現を使用せず、事実のみが伝わるようにしたつもりです。したがって、本作で扱った新自由主義や時の政権などに関する評価はしていません。あえて細かい情報を省いていますので、読者の解釈と相違する部分があるかと思いますが、その点をご理解・ご容赦願います。

今後、4部構成の本作を「本編」として、読者の疑問や要望に応える形で、その他の制度などを紐解くための「番外編」を展開していく予定です。ふくし生協のホームページから自由にダウンロードできますのでご活用ください。

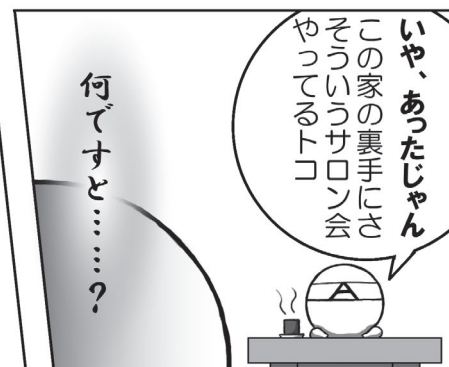
（専務理事 稲月秀雄）

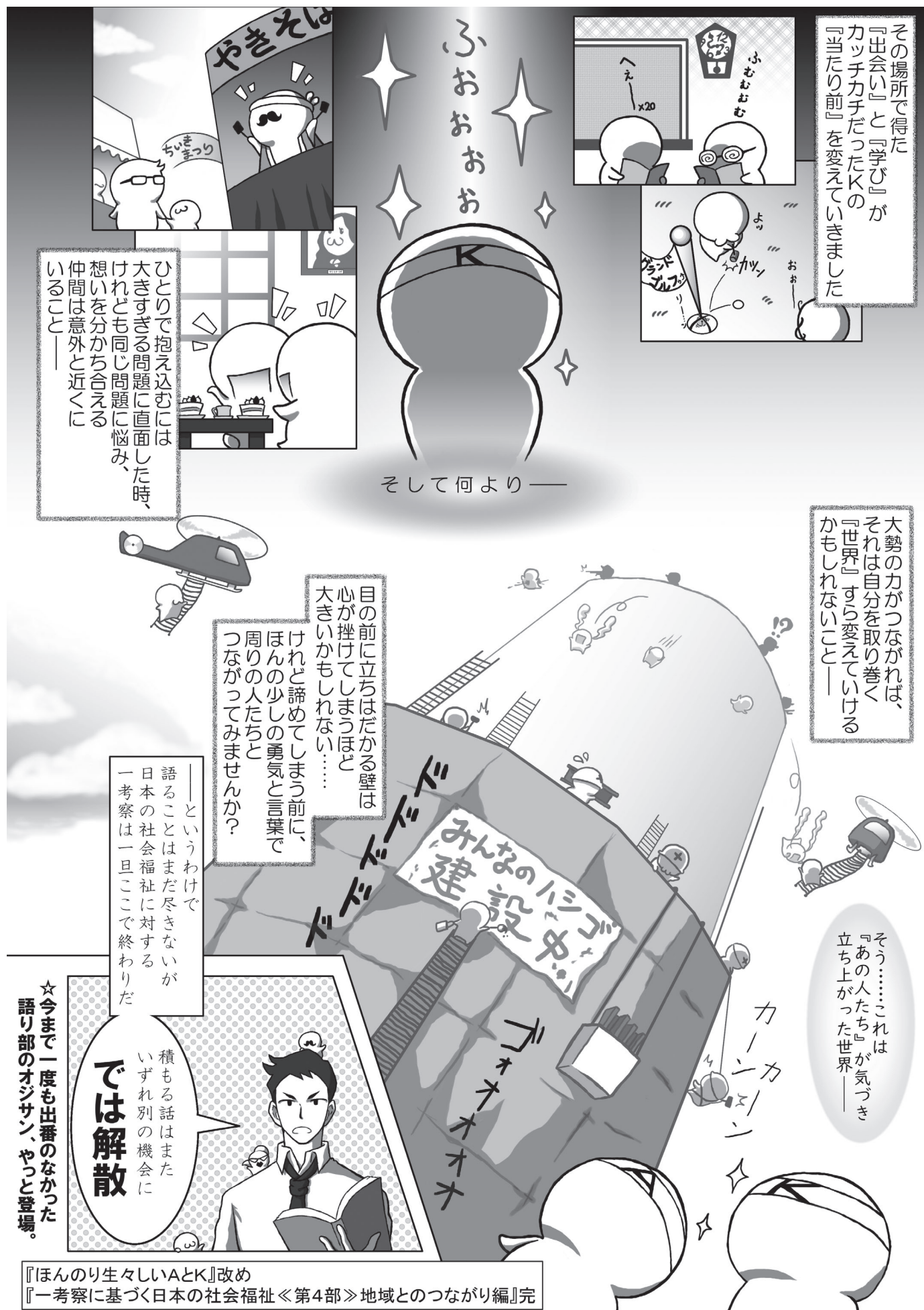
※この物語は、①文責(ストーリー・作画監修):稲月 秀雄(専務理事)
 ②作画担当:江島 大地(職員)…で、お送りしております。





※第3部3ページ目の中にいましてよ。





シリーズ「憲法とわたしたち」(最終回) No.10

私たちが渡すべきバトン
それは未来をひらく平和憲法

粘り強く憲法運動を続ける労働者の
共同行動

「平和憲法を守ろう!福岡県労働組合連絡会」の第15回総会(2月17日)で講演する機会を得ました。「憲法は絵に描いた餅ではない―職場や地域で憲法運動をどう強めるか」がテーマです。この連絡会は、「労働者は戦争政策に協力しない」の思いで、陸海空港湾マスコミ自治体の労働組合が呼び掛けたものです。

2002年「有事法案の廃案を求め」2000人規模の県民集会を2度開催、法が成立しても「平和憲法を守る」の一点で、上部組織が違う多くの労働組合が参加して、運動体として2005年に発足しました。

1980代に「日米防衛協力に関するガイドライン」が設定され、90年代に自衛隊を海外での戦争に参加させていく改定がされ、その関連法

が国会で審議された時に、法案を「戦争法」と位置づけ、真っ先に動員される「陸海空港湾」関係労働組合20労組が中心となって、「新ガイドライン法・戦争法反対」の大集会がなれども開催され、組織が違う労組をはじめ、宗教者文化人市民運動家政党など60年安保闘争を彷彿させる共同行動となりました。これに触発され、福岡県でも組織され、私は呼びかけ人の一人でした。

戦後、朝日訴訟や自衛隊違憲裁判をはじめ憲法訴訟において、運動を支えたのは労働組合でした。今日では、国会周辺での大行動も市民の参加が大きく報道され、すべて市民運動だと見られがちですが、運動の裏支えをしたのは労組やそのO・B・O Gでした。

軍事大国化と戦争への道を止めるのは憲法九条の力

そして主権者国民の声

さて、憲法をめぐる最大の課題は「九条の改憲を許すのか」です。ウソとゴマカシと官僚への人事権のおどし?など、憲法無視の独裁的政治がすすめられています。しかも、軍事優先です。超高額兵器の爆買い、防衛費膨張、福祉抑制切り下げ。国是としてきた「専守防衛」をかなぐり捨てて「防衛大綱・防衛計画」そして消費税増税。この流れは、戦前15年戦争に突入し、2000万のアジアの人と日本人310万の命を奪った流れと酷似しています。しかし、その流れを止める力は、「憲法は絵に描いた餅ではない」とたたかっていた労働者や国民が持つっており、厳然と九条が存しています。だから、軍事大国を夢見る勢力が、その最大のネックとなる九条を変えようとするのです。何としても九条の存在を無力化しようと「自衛隊の九条明記」を叫んでいます。もちろん安倍首相が一人我天でやっているのではなく、米国の強大な圧力と軍需産業を経済の基調にしたい財界の要求があるからです。そこには、国民の福祉は「我

慢論」でしかありません。

「戦争には絶対行かない国会のおじさんがなぜ勝手に戦争法を決めるのか(5万人集会女子高校生発言)」
「富者の利益のために貧困青年の命を使う権利はない(『経済的徴兵制』著者)」
「なぜ戦争がおこるか、結局軍需産業が原因だ。企業が兵器をつくって売るのが戦争の基(長沼自衛隊違憲判決・元中将の証言)」
は、「戦争は、誰が起こし、誰が利益を得、誰が犠牲になるか」を明言しています。このことが語られれば国民の圧倒的世論になります。つくり出された「危機」や「厳しい安全保障環境」などに騙されることなく、職場や地域で「9条変えるな」「軍事費削って福祉の充実を」の声を挙げ、次世代へ平和憲法のバトンを渡ししましょう。

これまで拙文を読んでいただいた方々に心から感謝します。(憲法語り部希望の方があれば、いつでも伺います。ご連絡ください)

くさかべ やすひさ
日下部 恭久
(ふくし生協組合員・
九条の会福岡県連絡会)

シリーズ

人生の高齢期を考える

ちちのまなざし

No. 40

筆者は、全国の「じじ」を代表したつもりで言います。目に入れても痛くない「まご」の今後が心配でなりません。それというのも、父親が暴力の末に、小学4年生の娘さんを殺してしまった事件があまりに理不尽で痛ましいからです。

「昭和な人」である「じじ」から、少子化時代の子育て中の若い「ちち」に、「ちちのまなざし」を育んでくださいとお願ひしたいのです。スマホばかりではなく、子どもに読み聞かせをし、自分自身も文学書や詩集などのよい作品に接し、人間に対する知性や情愛を深めてほしいと思います。

「親が無くて子は育つ、という。私の場合、親が有るから子は育たぬのだ」とか「子供より親が大事、と思いたい。子供のために、等と、古風な道学者みたいな事を殊勝らしく考えても、何、子供よりも、その親の方が弱いのだ」と太宰治は言いました。文学というものは人間の矛盾や葛藤を描くものですから、赤裸々な現実社会を生きていくうえで、指標やヒントになることもあり、いろんなことがあるよという警告やそれをのりこえる免疫ともなるはずです。簡単に言えば、次々にやってくる「いらいら」をやります方法をしるかも知的に身につけさせてくれる

のです。

では、ために、じじが若い父親だったころの昭和の詩をいくつか鑑賞してみてください。(オリジナルは分かち書きですが、行数の制約があり筆者が勝手に編集しました。)

ミミコの独立

山之口 貌

とうちゃんの下駄なんか はくんじやないぞ ぼくはその場を見て言ったが
とうちゃんのなんか はかないよ
とうちゃんのかんこをかりてって ミミコのかんこ はくんだ と言うのだ
こんな理屈をこねてみせながら ミミコは小さなそのあんなで
まな板みたいな下駄をひきずって行った
土間では片隅の かますの上に 赤い鼻緒の 赤いかんこが
かほちゃと並んで待っていた

奈々子に

吉野 弘

赤い林檎の頬をして 眠っている 奈々子。

お前のお母さんの頬の赤さは そっくり奈々子の頬にいつてしまつて
ひとところのお母さんの つややかな頬は少し青ざめた
お父さんにも ちょっと 酸っぱい思いがふえた。

唐突だが 奈々子

お父さんは お前に 多くを期待しないだろう。
ひとが ほかからの期待に応えようとして どんなに 自分を駄目にしてしまうか
お父さんは はっきり 知ってしまったから。

お父さんが お前にあげたいものは 健康と 自分を愛する心だ。

ひとが ひとでなくなるのは 自分を愛することをやめるときだ。

自分を愛することをやめるとき ひととは 他人を愛することをやめ
世界を見失ってしまう。

自分があるとき他人があり 世界がある。
お父さんにも お母さんにも 酸っぱい苦勞がふえた。

苦勞は 今は お前にあげられない。

お前にあげたいものは 香りのよい健康とかちとるにむづかしく はぐくむにむづかしい 自分を愛する心だ。

父

吉野 弘

何故 生まれねばならなかったか。

子供が それを父に問うことをせず ひと耐えつづけている間
父は きびしく無視されるだろう。

そうして 父は 耐えねばならないだろう。

子供が 彼の生を引受けようと 決意するときも なお

父は やさしく避けられているだろう。
父は そうして やさしさにも耐えねばならないだろう。

見知らぬ子へ

吉野 弘

何だかとてもおこりながら すたすた歩いて行くおかあさんのうしろから
中学に入ったばかりかな？ 女の子が
重い鞆をぶらさげて 泣きながらついて行く

ときどき振り向いて いいかげんにしなさいと おかあさんは叱るけれど

悲しみは泣いても泣いても減らないから
やつぱり泣きながらついて行く

あんなにおおきな悲しみが あんなにちいさな女の子に あつてもよいものだろうか

とあるビルからふらりと出て来た 男のひとが かがえている

そのひとはね ちいさいときに とても
厳しいおかあさんがいて

男の子は泣くものではありません！ て
あんまりたびたび叱られたものだから
いつも黙っている 怖い顔のひとになっちゃったんだ

そのひとは(怖い顔のまま) きみのうしろ姿を見ていた それから
黙ってきみに呼びかけた

振り向いて ぼくを見てごらん！

涙でいっぱいなの まっ赤な眼で もちろん
きみは振り向いて

黒々と立っている 見知らぬひとを見たのだけれど

そのひとが 黙ったまま こう言ったのは通じたらうか
もうだいじょうぶだよ なぜだかぼくにもわからないけれど

きみはだいじょうぶだとぼくは思うんだ
でも泣きたいときにはたくさん泣くとい

い 涙がたりなかったらお水を飲んで
泣きやむまで 泣くとい

(次号に続く)
(記・吉野道利)

リレー・エッセイ

38

学童保育と私、

そしてふくし生協

直方市学童保育支援センター

事務局長 藤廣 麻弓



リレー・エツ
セイの原稿依頼
が来た時の第一
声は「マジで？
??」でした。

はてなマークは消えぬまま、まずは自己紹介を：

私は、北海道で生まれ育ちました。結婚を機に夫の郷里である直方市に移り住み30数年が経ちます。

今では夫よりも筑豊弁が上手くなりました。

現在、「ふくし生協直方市学童保育支援センター」で事務局を務めています。

学童保育と私

「ふくし生協直方市学童保育支援センター」が、直方市より学童保育の事業委託を受けて、間もなく5年目を迎えます。

直方市の学童保育は5年前まで、保育料の徴収から始まり、支援員の

雇用、行政へ提出する書類作成、制度や施設改善のための行政への交渉、苦情対応など、学童保育運営に関する全てを、各小学校区の学童クラブに子どもを預けている保護者たちが、仕事の傍ら無償で担っていました。

私が学童保育に関わるようになったのは今から16年前、わが子を預けるため、学童保育を必要とする、同じ校区の保護者の方たちと共に、学童クラブの設立メンバーに加わったことからです。

関わり始めて数年後、「学童保育」をより良くしたいと、思いを同じくする市内数ヶ所の学童クラブの有志が集まり、行政と協働し運営組織を立ち上げ、私は事務局を担うことになりました。しかし、組織を運営することの難しさに心身ともに疲れ果て、何年もかけて作った組織から、たった4年で身を引いてしまいました。

その後は、学童保育に関わるようになって中断していた、読み聞かせや子育て支援ボランティア、文化活動等々、充実した日々を過ごしていました。

ふくし生協と学童保育

学童保育から離れて2年が過ぎようとしていたある日、一本の電話が：

「直方市が、学童保育の運営を委

託する事業者の公募を行う。ふくし生協として応募するので、もし、選定されたら事務局を手伝ってもらいたい。」

電話の主はふくし生協常務理事の森元茂利さんでした。

2年間、全くの音信不通ではありましたが、学童保育に関しては、私にとって師匠のような存在の森元さんです。

学童保育には二度と関わらないと決めていたのに：

でも、森元さんの元でなら目指したかった事が出来るかもしれない：：

相反する思いに揺れながら、応募に必要な書類作成のお手伝いを始めました。

当初、委託事業者は複数選定されるので、ふくし生協が選定されたとしても、3〜4ヶ所程度だろうと考えていました。

2015年3月2日、選定結果を知らせる連絡が入りました。

何と10ヶ所の学童クラブ（児童数470名）を委託されることになったのです。

各保護者会との運営の引き継ぎや4月からの児童の受け入れなど、準備期間は1ヶ月もありませんでした。

運営主体が突然変わること、多くの保護者や支援員が戸惑いと不安を感じていたことと思います。中に

は辞めていく支援員もいました。

そのような状況下で、子ども達のことを思い残してくれた支援員の方々、ふくし生協直方事業所の職員の方々のご協力で、4月1日、それまでと変わることなく児童を迎える事が出来ました。

学童保育を必要とする児童は年々増加し、学童施設は15ヶ所に増えました。

今年は630名近い子どもたちと新しい春を迎えます。

最後に、私にとって「ふくし生協」とは：

現在、事務局業務の傍ら「復興支援委員会」や「20周年記念実行委員会」等、ふくし生協の活動にも関わる機会を与えていただいています。

学童保育がなければ出会う機会もなかったはずの「ふくし生協」ですが、自分の生き方として目指してきたものが「ふくし生協」の理念の中にありました。中でも「自立と連帯」の精神に立ちのく文言が大好きです。

「ふくし生協」の理念を抛り所に、思いがいつか実を結ぶことを信じて、一步一步あゆんでいきたいです。楽しかったボランティア活動をする暇もなくなりましたが、あの時の一本の電話に今も心から感謝しています。

支部・事業所だより

直方フェスタ開催!! 講演会に140名以上参加

1月27日(日)、直方中央公民館にてふくし生協直方フェスタが開催されました。今回はデイが直方市の山部地区に移転して5周年を記念し、女性政策研究家の三井マリ子氏をお招きして講演会を開

催しました。

当日は直方市長・壬生隆明(みぶたかあき)氏をはじめとして地域で活躍をされている来賓の方々や多くの地域の方々が来場され、会場となつた直方中央公民館の大会議室はたちまち満員となりました。



講演会では「世界最高の北欧の福祉をさぐる」と題して三井氏が研究をおこなっているノルウェーの進んだ福祉事業が紹介されました。講演の中で三井氏はノルウェーは介護や教育、医療などの福祉サービスの全てが公的な費用で提供されていますが、これは最初から制度があったのではなく、地域の住民が必要なサービスについて声を挙げ行政などに要求をおこなったり、時には政治へ参加して自ら立ち上げることによって勝ち取ってきた結果であることを熱く語られ、参加者の皆さんに「声を挙げる意義と行動」について問いかけられました。

(取材・世利)

直方移転5周年! 文化のつどい大盛り上がり!!

2月8日(金)、直方事業所内にて移転5周年を祝う文化のつどいが開催されました。1月27日の講演会に続いた企画で利用者さんや家族の方々、職員の皆さんを含め会場

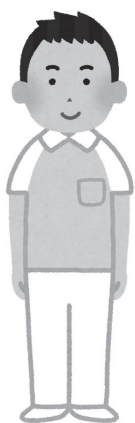


内はたちまち満員となりました。会場では変面やフラダンス、バナナのたたき売りや職員による踊りが披露され、大盛り上がりでした。また、当日は利用者さんの家族をお招きして家族会が開催されました。田代所長と石田運営委員長から直方事業所のこれまでの取り組みが説明された後、参加者の皆さんで意見交換をおこないました。参加者の皆さんからは直方事業所の取り組みへの感謝やこれからの展望などの夢が語られ、今後もこうした家族会を定期的に開いていきたい等、活発な意見が交わされていました。

(取材・世利)

2018年度 ケアワーカー集会

～明日へのやる気と活力を!～



2019年3月17日(日)

時間: 10:30～15:30

会場:

かすやドームサブアリーナ

福岡県糟屋郡粕屋町駕与丁3-2-1

★プログラム★

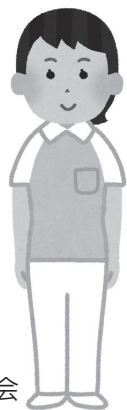
午前の部

- ヨガ教室
- ユマニチュード研修

午後の部

- 「虐待防止」の取り組み発表
- 豪華景品が当たる抽選会

主催: ふくし生協 ケアワーカー集会実行委員会



「ブロック別総代会議」のご案内

本部事務局だより

今年も、下記のように「ブロック別総代会議」を5月に予定しています。総代を中心にして、より多くの方々と一緒に総代会議案について事前の質疑討論を行い、6月16日の総代会に備えます。

- ★定款45条および総代選挙規約の定めるところにより、2019年度総代の選挙を実施します。
(組合員35名に1名の総代)総代の任期は総代会(6月16日)より1年とします。
- ★総代立候補受付期間:4月8日(月)から4月30日(火)
- ★選挙日:5月7日(火)とし、選挙区ごとに実施します。
各選挙区の立候補者が定数以内だった場合は、選挙は実施せずに、候補者全員を当選者とします。
- ★選挙管理委員(4名とし、委員会にて委員長を互選します。)

地区名 (ブロック)	総代定数 (予定)
北九州	58名
筑豊・遠賀	33名
福岡	55名
筑後	3名
本部・その他	11名
合計	160名

地区名 (ブロック)	ブロック別総代会議	
	開催日時(予定)	会場
北九州	5月11日(土)13時00分～15時00分	北九州統括事業部内
筑豊・遠賀	5月11日(土)10時00分～12時00分	直方事業所内
福岡	5月19日(日)10時00分～12時00分	ふくし生協本部内
筑後	5月19日(日)10時00分～12時00分	こくぶの杜内
本部・その他	——— 上記都合のいい日程にご参加ください ——— 総代定数およびブロック別総代会議日程は2月末現在です。 詳しくはお近くの事業所または本部へお問い合わせください。	

読者の声

▼毎回、ひやくさいを読むのが楽しいです。一月号(No.95)では、全所長さんたちの思いが伝わり、現場の状況がよく理解できました。読める紙面作りに苦勞されている編集者に敬意を表します。

2017年(平成29年)9月号No.87からの「憲法とわたしたち」の投稿も今号の10回で終了です。今後は庶民の文化(映画・漫画・ラジオ・テレビ・落語・講談・浪曲等を対象)についての投稿も準備しています。その場合、組合員の方々に福祉

ふくし生協創立20周年記念 第20回通常総代会のお知らせ

私たちのふくし生協では年1回、組合員の代表(総代)が集まって、この一年間の活動や財政がどうであったかをふりかえり、各地での活動を報告し合います。そして、これからの一年間、どのようなことをめざしてどんなふうに活動していくか、中長期の目標にてらしながら、上記ブロック会議での「質疑のまとめ」を話し合い、確認し合うふくし生協の一番大切な場としての総代会です。

オブザーバー参加の方も大歓迎です。ぜひ、一緒に「明日」を語り合しましょう。

総代会日程・会場

2019年6月16日(日)10:30～16:00

福岡国際会議場(4F:411・412)

(福岡市博多区石城町2-1 TEL 092-262-4111)

ではない何か文化的なことを投稿していただくのも「ひやくさい」を豊かにすることになると思います。編集委員会でご検討下さい。

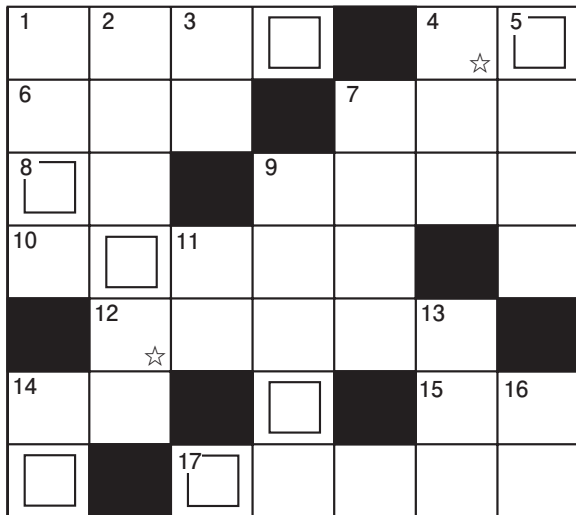
(福岡市東区・日下部恭久)

▼ふくし生協「ひやくさい」を毎回読んでいます。先号No.95の「憲法とわたしたち」での年金切り下げは憲法25条違反の日下部氏の主張に同感です。年金削減は、政府の「世代公平論」と「持続可能性」という誤魔化しの「見解」にあります。これを正さねばなりません。世論づくりが必要でしょう。共にがんばりましょう。

(古賀市・松崎 文夫)

クロスワードパズル

46



▼タテ、ヨコの《カギ》に従ってマス目に言葉を入れてください。ただし、右下隅に☆のあるマスには漢字が入ります。タテ、ヨコで漢字の読みは違っています。すべてのマスを埋め終わったら、二重マスの中の文字を並べ替えて、《ヒント》にふさわしい言葉を作ってください。それが答えです。

《ヒント》冬から春の変わり目です。体調に注意しましょう。

- 1 文章などで本題より先に述べること
2 倍率の高い学校に合格
3 仕上がり具合。いいくだ
4 思いがけなく対面すること
5 納税の季節、申告はもう済ませましたか？
7 気分が良いとフフンと口から出ます
9 微妙な意味合い
11 おとと一髪だったね
13 好都合なところ。駅に近いのがだね
14 小麦粉を原料とし、イーストなどを混ぜ発酵させて焼いた食品
16 クロスワードはここに文字を入れていきます
17 ハラハラさせる展開の小説や映画
- 1 大きな期待を寄せて教えます
4 商品を市場に送ります
6 予定の日を先に変更します
7 しっかりと理解すること。状況を
- 8 土地の小高い所
9 中心となつて物事を進める人
10 重大で直ちに対応しなければならぬこと。事態発生
12 道が行き詰まって進めなくなつた所
14 お父さんのこと
15 何かをするのに費やす労力
17 ハラハラさせる展開の小説や映画

■前回の答えは「ダウンジャケット」でした。正解者多数につき、抽選で次の5人の方々にQUOカードを送りました。

◆九十五号クロスワードパズル当選者

- ・野澤 啓子さん(八幡西区)
- ・奥村 康治さん(福岡市早良区)
- ・古門 文江さん(行橋市)
- ・松崎 文夫さん(古賀市)
- ・岩見 静子さん(水巻町)

完成した言葉と「ひやくさい」の感想などをはがきを書いて、「ふくし生協・広報委員会クロスワードパズル係」まで4月15日必着。正解者の中から抽選で5人にQUO(クオ)カードを送ります。

▼「ひやくさい」が届くと、ひと通り読んで最後に必ずパズルを解きます。また誌面では特に「人生の高齢期を考える」を熱心に読みます。先号No.95での外国人労働者受け入れ問題、水道事業民営化などは考えさせられました。真剣な議論が必要だと思っています。私は夫と2人の年金で何とか暮らしている状況ですが、70歳になる今、少し誰かのお役に立つ事を始めてみようかなと考えています。

▼知人が「デイサービス・ミナミ」
(北九州市八幡西区・野澤 啓子)

にお世話に成って居るので、フェスタを楽しんだり「ひやくさい号」を読んだりし、特にみんなの文芸広場を楽しみにして居ます。

▼福岡市南区・真子 辰喜

▼毎回、ひやくさいを興味深く読んでいます。介護従事者の方の大変さがよくわかります。人手不足が問題になっています。介護従事者が安心して暮らせる待遇を保障することを国は考えて欲しいと思います。

▼「年金の支給を毎月にして欲しい」
(福岡市早良区・奥村 康治)

い」の記事、国も大きな借金を抱えているので、人件費のことを考えるとこれ以上増えて欲しくないと思います。受け取り方もやりくりをするのも頭の体操です。俳句と川柳の南区の「好様」・「丸山様」楽しく詠ませてもらっています。これからも頑張つて下さい。

▼先号No.95では、ふくし生協のいろんな事業所の様子がわかり、勉強になりました。
(福岡市南区・原 晴江)

▼行橋市・古門 文江

▼なんだか春が来た感じ。我が家のパンジーがキリッとして沢山咲いています。玉子の底から中身を出してヒナ人形を作りました。一足早いひな祭りです。母も103歳、健康で元気に青春しております。人生100年時代、生きちるだけで丸儲けです。(12ページ参照)

▼みんなの文芸広場を見て今年の干支の亥が可愛いくて心が和みます。

▼読者の声を楽しんで読んでいます。
(遠賀郡遠賀町・富田 俊二)

▼宗像市・村井志保子



▲ほのぼの消しゴム版画作品
(版:加治美千代 字:鶴田輝子)



▲三浦弘子(水巻町)

ご投稿ありがとうございます。

みんなの 文芸 広場



▲榎園妙子(水巻町)



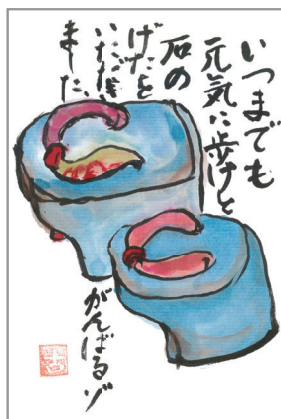
▲吉積三重子(水巻町)



▲宮崎房恵(水巻町)



▲上杉由美子(水巻町)



▲古賀信子(水巻町)



▲江上淑子(水巻町)

投稿川柳と短歌

俳句

丸山玉枝(ミナミ・デイサービス)

梅の花 ちらりほらりと 三分咲き
節分や 病院ベッドで 福は内
立春に リハビリ汗の こち良さ

川柳

伊藤幸雄(給食センター)

番頭は 靴見て客の 品定め
シルバーも ピンクに染まる 年金日

好(ミナミ・デイサービス)

散歩道 タンポポ迄も 外来種
新年に ごちそう食べて 二段腹
初詣で 車イスにて ハイビース
七草を かみしめながら 計を立て
ロウ梅の 香り便りに 友宅へ

短歌

好(ミナミ・デイサービス)

子宝に 餅飴持つて 産祝い
千人針も 懐かしきかな

消す過去が あったはずだが 物忘れ

老春の 憂さを晴らすか 袋とじ
父母の つないだ謎の 赤い糸

行事弁当 ご予約承ります

お花見、会議・研修
敬老の日、地域の集会
などの各種行事に
特製お弁当をどうぞ

800円
(税別)より

メニュー・価格は
ご相談ください

お問合せ・ご注文は...

粕屋給食センター ☎092-933-0641